

履 歴 書

氏名 関口 章 (せきぐち あきら)
生年月日 昭和27年2月14日 群馬県に生まれる
現住所 茨城県つくば市上ノ室1045-10



学 歴

群馬大学工学部応用化学科 昭和49年3月 卒業

“フェニル置換シリルジアゾ化合物の合成とその熱分解反応に関する研究”

学士 (指導教官 右田 俊彦 教授)

群馬大学大学院工学研究科 昭和51年3月 修士課程修了

“含ケイ素カルベンを前駆体とするシラエテンの生成に関する研究”

(指導教官 右田 俊彦 教授)

筑波大学大学院化学研究科 昭和53年3月 博士課程中退

“シラベンゼン及びシラフルベンの生成反応と不安定中間体のマトリックス中への固定化に関する研究” (指導教官 安藤 亘 教授)

筑波大学 昭和56年10月 (筑波大学第77号) 理学博士取得

“Chemistry of Silylcarbene: Generation and Reaction of Silaethylene”

米国ウィスコンシン大学 昭和60年4月～61年3月 博士研究員

“ケイ素三重結合化合物中間体に関する研究”

(指導教官 Robert West 教授)

職 歴

筑波大学研究協力部研究協力課文部技官 昭和53年4月～昭和55年12月

筑波大学助手 昭和56年1月～昭和57年5月

筑波大学講師 昭和57年6月～昭和62年3月

米国ウィスコンシン大学博士研究員 昭和60年3月～昭和61年3月

東北大学助教授 昭和62年4月～平成8年3月

筑波大学教授 平成8年4月～平成16年3月

筑波大学アイソトープセンター長	平成13年4月～平成14年3月
筑波大学大学院化学研究科長	平成14年4月～平成16年3月
筑波大学数理物質科学研究科化学専攻長	平成14年4月～平成16年3月
ベルリン工科大学客員教授	平成16年4月～平成19年3月
筑波大学化学系長・化学域長	平成23年4月～平成25年3月
筑波大学数理物質科学研究科化学専攻長	平成23年4月～平成25年3月
筑波大学名誉教授	平成29年4月～
東京都立大学大学院理学研究科非常勤講師	平成16年12月～平成17年3月
大阪市立大学大学院理学研究科非常勤講師	平成18年4月～平成19年3月
台湾国立科学評議会	平成20年5月
東京工業大学大学院総合理工学研究科非常勤講師	平成21年4月～平成21年9月
京都大学大学院工学研究科非常勤講師	平成25年4月～平成25年9月
名古屋大学大学院工学研究科非常勤講師	平成27年4月～平成27年9月
筑波大学数理物質系特命教授	平成29年5月～平成30年3月
産業技術総合研究所 触媒化学融合研究センター 招聘研究員	平成29年4月～現在

所属学会

アメリカ化学会, 日本化学会, 近畿化学会, 有機合成化学協会, ケイ素化学協会

学術誌編集委員

日本化学会欧文誌 (Bull. Chem. Soc. Jpn.)	平成8年3月～平成11年3月
日本化学会速報誌 (Chemistry Letters)	平成14年3月～平成17年3月
Advisor Board: Organometallics (アメリカ化学会)	平成14年1月～平成16年12月
Advisor Board: J. Physical Organic Chemistry (国際誌)	平成20年7月～平成25年7月

審議会・委員等歴

日本化学会学術賞選考委員会部門別選考委員会委員 (平成9年6月～平成11年3月)
日本学術振興会科学研究費委員会専門委員 (平成17年1月～平成17年12月)
文部科学省科学技術・学術審議会専門委員 (平成17年2月～平成19年1月)

科学技術・学術審議会学術分科会科学研究費補助金 審査部会理工系委員, 科学技術・学術審議会学術分科会科学研究費補助金審査部会研究成果公開発表委員会委員
日本化学会 学術賞・進歩賞選考委員会委員 (平成17年4月～平成19年3月)
日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会審査委員 (平成19年8月～平成22年7月)
平成24年度科学研究費助成事業 (特別推進研究) の追跡評価に係わる評価委員 (平成24年5月～平成24年6月)
文部科学省科学研究費補助金における評価に関する委員会の評価者 (平成24年12月～平成25年11月)
日本学術振興会科学研究費委員会専門員 (第2段審査委員) (平成25年1月～平成26年12月)
産業総合研究所触媒化学融合研究センター評価委員会・委員長 (平成25年11月～平成27年3月)

主な学会活動

International Advisory Board Member of 8th International Conference on Inorganic Ring Systems (Loughborough, UK) (平成9年7月)
Organizing Committee Member of The 12th International Symposium on Organosilicon Chemistry (ISOS XII, Sendai, Japan) (平成11年5月)
International Advisory Board Member of 9th International Conference on Inorganic Ring Systems (Saarbrücken, Germany) (平成12年7月)
Chairman of The 10th Japan-Korea Joint Symposium on Organometallic and Coordination Chemistry (Tsukuba, Japan) (平成13年6月)
National Scientific Committee Member of XVth International Conference on Phosphorus Chemistry (ICPC 15, Sendai, Japan) (平成13年7月)
International Advisory Board Member of 10th International Symposium on Inorganic Ring System (IRIS X, Vermont, USA) (平成13年8月)
Organizer of The 11th Japan-Korea Joint Symposium on Organometallic and Coordination Chemistry (Pusan, Korea) (平成14年11月)

International Advisory Board Member of Third International Conference on the Chemistry of the Alkali and Alkaline Earth Metals (Würzburg, Germany) (平成 15 年 9 月)

International Advisory Board Member of The 14th International Symposium on Organosilicon Chemistry (ISOS XIV, Würzburg, Germany) (平成 17 年 7 月)

Organizer of Recent Development in Organoboron and Organosilicon Chemistry: 2005

International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Honolulu, USA) (平成 17 年 12 月)

International Advisory Board Member of 11th International Symposium on Inorganic Ring System (IRIS XI, Oulu, Finland) (平成 18 年 7 月)

Organizing Committee Member of OMCOS 14. The 14th IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed towards Organic Synthesis (Nara, Japan) (平成 19 年 8 月)

International Advisory Board Member of The 15th International Symposium on Organosilicon Chemistry (ISOS XV, Jeju, Korea) and The 2nd Asian Silicon Symposium (ASiS-II) (平成 20 年 6 月)

International Advisory Board Member of The Asian Silicon Symposium (平成 20 年 6 月～現在)

Organizing Committee Member of The 10th International Conference on Heteroatom Chemistry (Kyoto, Japan) (平成 22 年 7 月)

Organizing Committee Member of 5th Pacific Symposium (PSRC-5) on Radical Chemistry (Osaka, Japan) (平成 22 年 10 月)

Chairman and Organizer of 4th Asian Silicon Symposium (ASiS-IV) (Tsukuba, Japan) (平成 22 年 10 月)

International Advisory Board Member of The 16th International Symposium on Organosilicon Chemistry (ISOS XVI, Hamilton, Canada) (平成 23 年 8 月)

Organizing Committee Member of XXVI International Conference on Organometallic Chemistry (ICOMC 2014) (Sapporo, Japan) (平成 25 年 7 月)

International Advisory Board Member of The 18th International Symposium on Organosilicon Chemistry (ISOS XVIII, Jinan, China) in Conjunction with 6th Asian Silicon Symposium (平成 29 年 8 月)

International Advisory Board Member of The 19th International Symposium on Organosilicon Chemistry (ISOS XIX, Toulouse, France) with the 10th European Silicon Days (令和3年7月)

学会役員および受賞

有機合成化学協会 平成2年度有機合成化学奨励賞 (平成3年2月)

有機合成化学協会 第4回有機合成化学協会研究企画賞 (平成4年2月)

ケイ素化学協会理事 (平成8年6月～平成18年3月)

第10回日本IBM科学賞 (平成8年11月)

日本化学会 平成8年度日本化学会学術賞 (平成9年3月)

日本化学会関東支部幹事 (平成10年3月～平成12年2月)

日本化学会 BCSJ 賞 (平成12年7月, 第1回受賞者)

近畿化学協会評議員 (平成13年5月～平成21年5月)

有機金属部会常任幹事会委員 (平成14年4月～平成29年3月)

ドイツ アレキサンダー・フンボルト賞 (平成16年4月)

日本化学会学術賞・進歩賞選考委員会委員 (平成17年4月～平成19年3月)

アメリカ化学賞 (フレデリック・キッピング賞, 平成18年3月)

ケイ素化学協会常任理事 (平成18年4月～平成20年3月)

ケイ素化学協会副会長 (平成20年4月～平成24年3月)

近畿化学協会代議員 (平成21年4月～平成26年3月)

日本化学会賞 (平成24年3月)

ケイ素化学協会会長 (平成24年4月～平成26年3月)

筑波大学 Best Faculty Member 賞 (平成25年3月)

フランス トゥールーズ大学 Docteur Honoris Causa (名誉博士号) (平成25年7月)

紫綬褒章 (平成26年4月)

ドイツ WACKER Silicone Award (ワッカーシリコーン賞) (平成26年8月)

日本フンボルト協会名誉会員 (平成27年6月～現在)

韓国 The 6th Kim Yong Hae Lectureship Award (平成28年11月)

筑波大学 2016 Best Faculty Member 賞 (平成29年2月)

ケイ素化学協会顧問 (平成29年4月～平成31年3月)

ケイ素化学協会名誉会員（平成31年4月～現在）

発表論文：原著論文数 316報， 総説22編， 著書25編， 特許4報

以上研究領域：ケイ素置換 π 電子系化合物の合成とアニオン化，三次元高歪カゴ型ケイ素及びゲルマニウム化合物の構築，リチウム化合物の化学的挙動の解明，樹状ポリシランの開発と物性研究，高周期典型元素開殻分子の合成と物性，高周期14族元素からなるカチオン性芳香族化学種の創製，三重結合ケイ素化合物ジシリンの合成と反応性の解明，低配位有機ケイ素及び関連高周期14族元素化合物に関する研究，ケイ素材料の二次電池への応用等に関する研究

主な受賞の内容

ドイツ アレキサンダー・フンボルト賞（平成16年4月）

賞の由来：ドイツ政府が全額出資する国際的学術活動の支援機関であり，[ドイツのノーベル財団]とも称されるアレキサンダー・フンボルト財団が創設した賞である。人文，社会，理，工学，医，農学の各分野において，基本的な発見もしくは理論によって後世に残る重要な業績を挙げ，今後も学問の最先端で活躍すると期待される国際的に著名な研究者に対して授与される。業績「Contribution to Heavier Group 14 Element Chemistry」

アメリカ化学会賞（フレデリック・キッピング賞，平成18年3月）

賞の由来：アメリカ化学会キッピング賞は，近代ケイ素化学の父ともいわれる英国のフレデリック・キッピングの偉大な功績を讃えて設けられたものでケイ素化学の最高峰の賞であり，ケイ素化学分野のノーベル賞ともいわれている。シリコン工業会社のアメリカダウコーニング社が支援してアメリカ化学会が1960年に創設した賞で，受賞者はケイ素化学に関連する分野の世界中の研究者の中から選ばれている。業績「For creatively meeting the challenge of preparing such fundamentally important species as disilynes, triplet ground state silylenes, heavy group 14 cations, radicals, anions, and dimetallenes」

日本化学会賞（平成24年3月）

賞の由来：日本化学会会員であって，化学の基礎または応用に関する貴重な研究をなし，その業績が特に優秀な者に授与される。なお，学術賞の受賞者で，学術賞受賞後さらに顕著

な業績を挙げた場合には、その部分について学会賞の授賞対象とする。業績「低配位有機ケイ素及び関連高周期 14 族元素化合物の創製研究」

フランス トゥールーズ大学 Docteur Honoris Causa (名誉博士号) (平成 25 年 7 月)
トゥールーズ大学 (The University of Toulouse) はヨーロッパの大学で最も古い大学の一つで 1229 年に設立された伝統ある大学である。1912 年のノーベル化学賞の受賞者であるポール・サバティエ (Paul Sabatier) の名前を冠して理系分野をポール・サバティエ大学ともいう。業績「Outstanding achievements in research on the creation of organosilicon compounds and related heavier group 14 compounds and contribution to the Japan-France exchange program」

紫綬褒章 (平成 26 年 4 月)

賞の由来：栄典は、国家又は公共に対し功労のある方、社会の各分野における優れた行いのある方などを表彰するもので、勲章及び褒章がある。紫綬褒章は、学術、芸術上の発明、改良、創作、スポーツに関して事績の著しい方に贈られるものである。功績「有機元素化学研究における顕著な功績」

ドイツ WACKER SILICONE AWARD (ワッカーシリコーン賞) (平成 26 年 8 月)

賞の由来：ワッカーシリコーン賞は、ドイツを拠点とする世界的な化学会社 Wacker Chemie AG が設立した国際賞で、アメリカ化学会のキッピング賞と並んで、有機ケイ素化学分野で最も栄誉ある賞である。ワッカー社が 1987 年に創設した賞で、受賞者はケイ素化学に関連する分野の世界中の研究者の中から選ばれている。業績「Pioneer Research in the Field of Organosilicon Chemistry」

ケイ素化学協会協会賞 (平成 28 年 10 月)

賞の由来：ケイ素化学協会会員で、ケイ素化学の基礎または応用に関して特に優秀な研究業績を挙げた個人に対し、ケイ素化学協会が授与するものである。業績「低配位有機ケイ素及び関連高周期 14 族元素化合物に関する研究」